

■現地調査ポイント①：重要水防箇所（天竜川で特に警戒すべき区間）

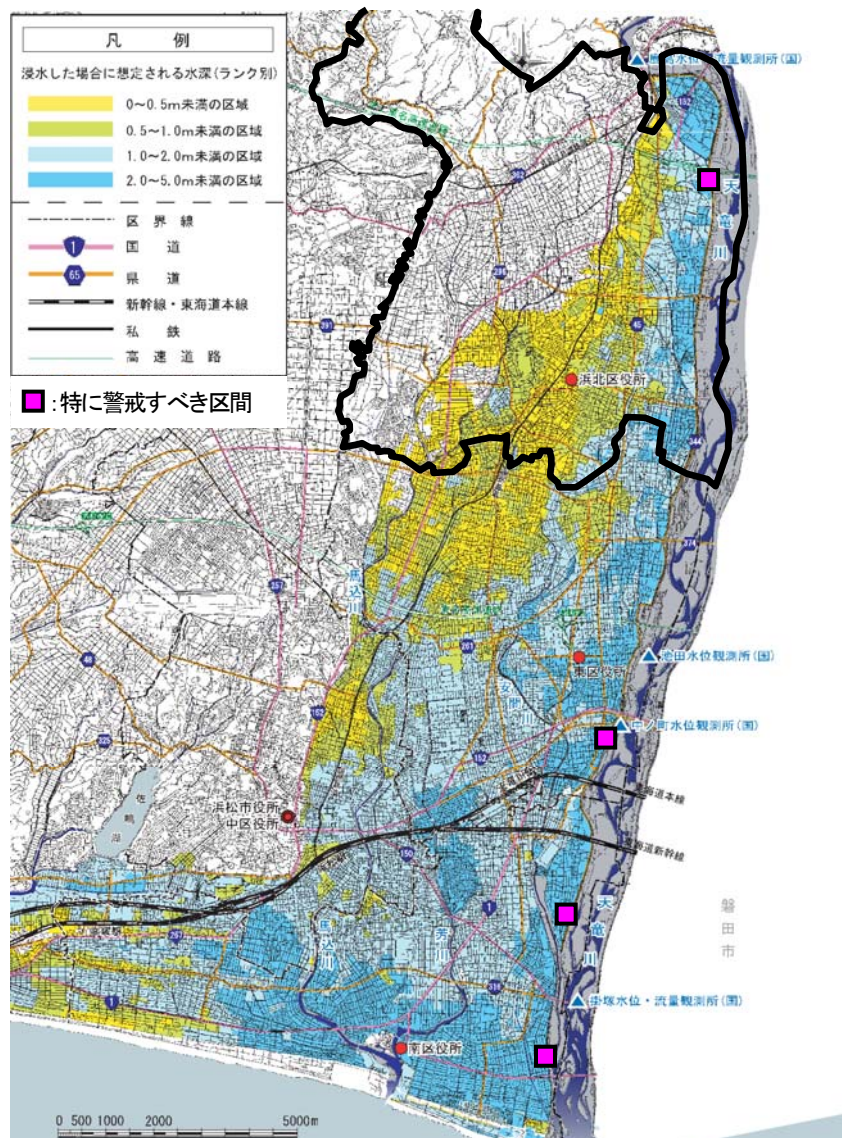
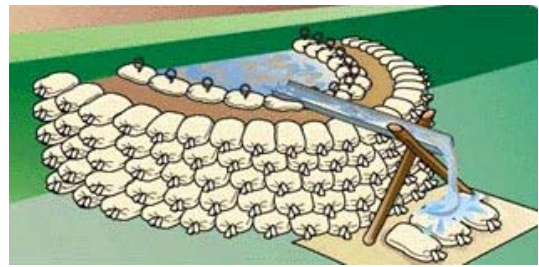
- ・「重要水防箇所」は、堤防の大きさが不足している箇所、洪水が堤防や地盤を浸透して湧き出す箇所、堤防の法崩れの危険があるところなど、洪水時に危険が予想される重点的に巡視点検や水防活動を行う必要がある箇所。

【浜北区中瀬 上島樋管下流】

- ・上島樋管下流の80mの区間が重要水防箇所として指定されています。（天竜川の重要水防箇所としては、浜北区1箇所、東区1箇所、南区2箇所が指定（下図参照））
- ・過去に漏水し、月の輪工を施した実績のある箇所です。

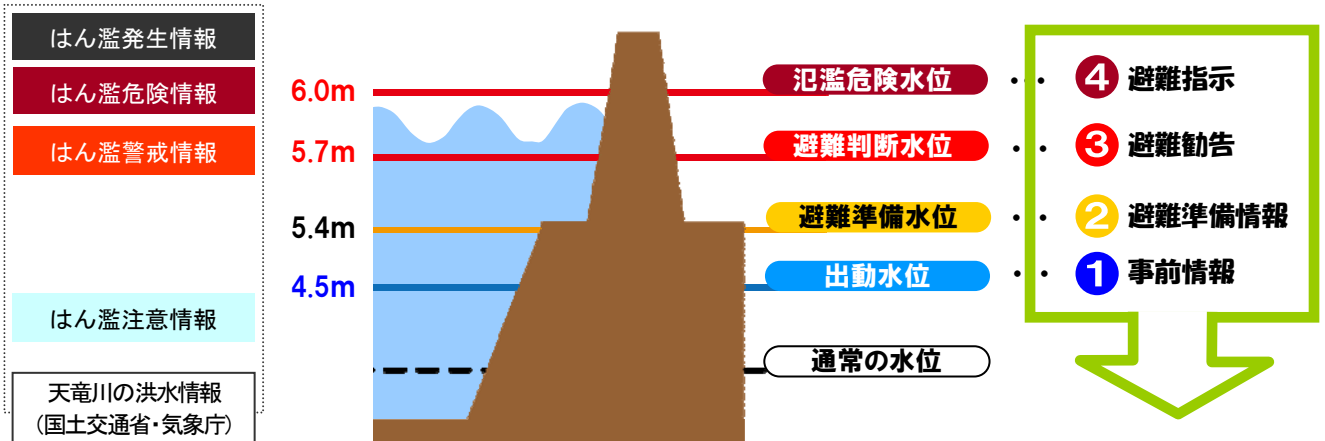
○月の輪工とは…

出水中、堤防の居住地側斜面で、漏水によって水が噴出した場合、土のうを積んで水を溜め、その水圧で堤防からの漏水を抑える水防工法のこと。



■現地調査ポイント②：鹿島水位観測所

【天竜川における避難情報の発令と避難行動】



1 事前情報

- ・浜松市南部に大雨、洪水警報（天気予報）が発表される
- ・鹿島観測所の水位が4.5mを記録

⇒避難準備を始めましょう

特に、要援護者など避難に時間を要する人は、家族との連絡、非常用持出品の準備を始めます。

2 避難準備情報

- ・鹿島観測所の水位が5.4mを記録
- ・このまま雨が降り続くと1時間後には避難勧告が発令される



⇒【要援護者】避難を始めましょう

特に、要援護者など避難に時間を要する人は、近くの避難所へ避難をはじめます。（支援者も一緒に避難）

⇒【要援護者以外の人】避難準備を始めましょう（家族と連絡、非常用持出品の準備等）


3 避難勧告

- ・「はん濫警戒情報」が発表になり、水位上昇が予想される
- ・鹿島観測所の水位が5.7m（避難判断水位）を記録

⇒【要援護者】避難中もしくは避難完了

⇒【要援護者以外の人】指定避難所へ避難を始めましょう

- ① 近くの避難所へ向かいます。
- ② 近くの避難所が、1階部分浸水する避難所の場合

※避難所へ移動中に突発的な洪水流に遭遇することを想定し、「洪水時緊急避難施設」や近くの高い建物に逃げる心構えをして行動します。

4 避難指示

- ・「はん濫危険情報」が発表になり、水位上昇が予想される
- ・鹿島観測所の水位が6.0m（はん濫危険水位）を記録

⇒避難完了（避難中の人）は急いで避難所へ

⇒【避難していない人】すぐに避難を！

- ・近くにあるできる限り高い建物の上階へ避難します。

【洪水予報】

- ・国土交通省と気象庁から天竜川に関する予報が発表されます。

予報の種類	発令の基準
はん濫注意情報	はん濫注意水位に到達した時に発令
はん濫警戒情報	避難判断推移に到達した時、あるいは水位予測に基づき、はん濫危険水位に達すると見込まれた時に発令
はん濫危険情報	はん濫危険水位に到達した時に発令
はん濫発生情報	はん濫が発生した時に発令

【逃げ遅れた時は・・・】

●水の勢いに注意！

- ・水深が浅い場合でも、水の流れが速い場合は歩行が困難な状態になります。
- ・水害時の死亡は屋外が半数以上・・・浸水した場所を通る際に流されるケースが多い

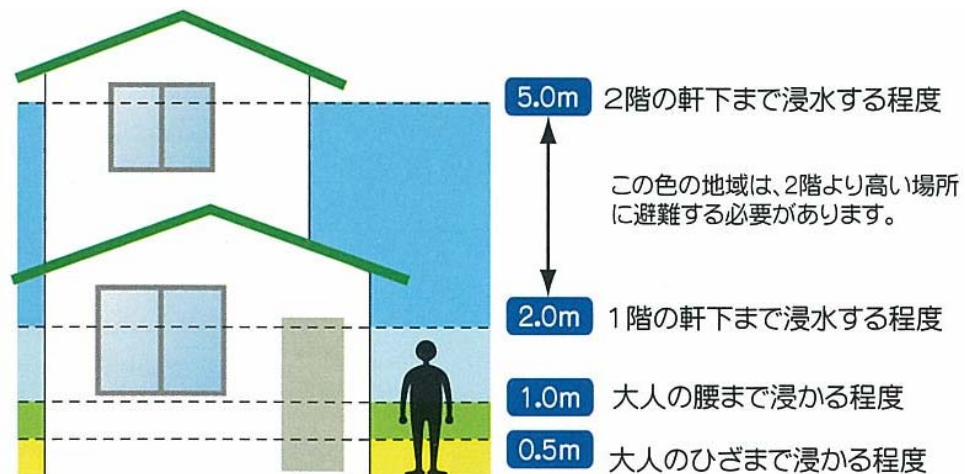
●高い道路を通る！

- ・避難する場合はできる限り高い道路を通ります。
- ・浸水箇所がある場合は、溝や水路、マンホールなどに注意します。

●まずは命を守るための避難を！

- ・万一逃げ遅れた場合は、遠くの避難所へ行くより、近くにある強固な建物の2階以上に逃げる方が安全です。

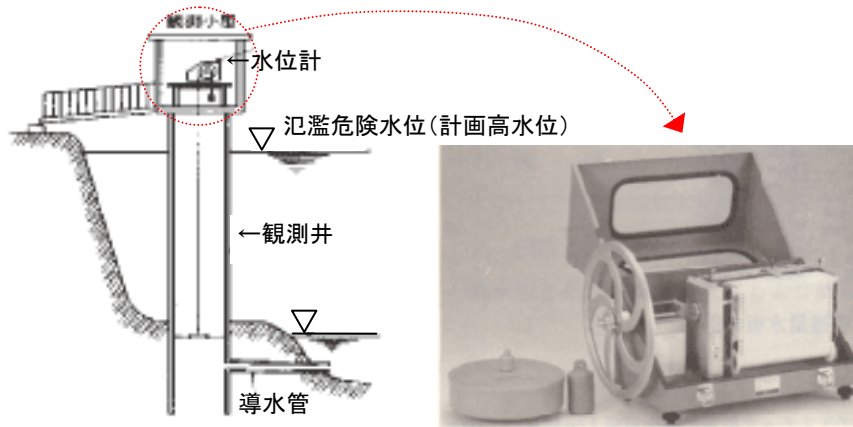
【浸水深の目安】



【参考：水位観測器の種類】

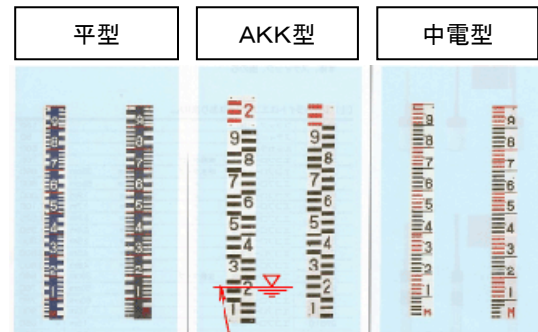
①フロート式水位計

- ・観測井にフロートを浮かべ、測水プーリを介して水位変化を機械的にペンに伝達して観測する水位計です。電源が不要のため災害（停電）にも強い水位計です。



②量水板

- ・鋼製またはアルミ製の板（幅 20～30cm程度）に目盛が記入されたものです。護岸や橋脚の表面に設置し、水位を読み取ります。
- ・量水板の目盛表示は大きく 3 種類あります。



AKK型について、上記は「水位 16cm」ですが、26cmと読み間違いやすいので注意

■ポイント③：急傾斜地崩壊危険箇所・急傾斜地崩壊危険区域

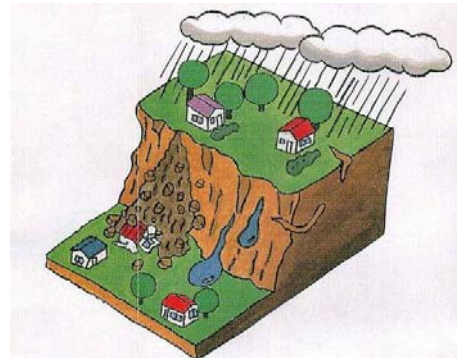
【急傾斜地崩壊危険箇所】 **がけ崩れ**

- ・傾斜度 30 度以上で高さが 5m以上の斜面のうち、土砂が崩れた場合に人家等の被害が予想される警戒すべき箇所のこと

裏山が崖地になっている住宅では、日頃から斜面の状況に注意し、前兆現象を見落とさないようにすることが重要です。

●がけ崩れの前兆現象

斜面に亀裂ができる
小石が斜面からばらばらと落ちだす
斜面から異常な音、山鳴り、地鳴りが聞こえる
斜面にはらみがみられる
普段澄んでいる湧き水が濁る
水の吹き出しがみられる
湧き水が急激に増加、もしくは湧き水が減少・枯渇する



1 情報収集

⇒テレビ、ラジオで気象情報（雨量等）をチェック

- ・崖地の前兆現象に注意
- ・同報無線のアナウンスに注意

1 時間 20 mm以上、
降り始めてから 100 mm以上の
降雨量になったら土砂災害に注意！

2 避難準備情報（同報無線など）

⇒【要援護者】自主避難を始めましょう

- ・特に、高齢者など避難に時間を要する人は、近くの避難所に避難を始める

⇒【要援護者以外の人】

- ・崖崩れや河川氾濫など、異常現象を発見したら区役所や消防署に連絡
- ・避難準備（家族との連絡、非常持ち出し品の準備など）

3 避難勧告（同報無線など）

⇒【要援護者以外の人】避難を始めましょう

- ・テレビやラジオ、同報無線、防災ほっとメールにより避難勧告の発令があったら、すぐ避難所へ避難

4 避難指示（同報無線など）

⇒【要援護者以外の人】すぐに避難しましょう

- ・避難が遅れた人はすぐに避難（市が開設した避難所やあらかじめ決めておいた知人宅へ）

⇒【避難所が遠い人】少しでも安全な場所へ移動

- ・遠くに避難すると危険な場合、近くで強固な建物の上階へ避難
- ・家の近くが危険な場合でも上階の山の反対側に移動